

◆釜石市の人口

被災前 39,574名 (H22.10.1)
被災後 36,643名 (H25.3.1)

位置図



釜石市

◆被災状況

平成25年 3月11日現在

○人的被害

死者 978名
行方不明者 152名

○物的被害

浸水範囲面積 7 km²
全壊 2,957棟
半壊 698棟
一部破損 1,049棟

出典：消防庁災害対策本部 平成25年3月26日発表
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)被害報より



被災状況(釜石市花露辺地区)平成23年3月20日撮影

岩手県釜石市 - 花露辺地区 -

◆復興まちづくりの考え方

○地区内の高所における移転や多重防御により、
浸水しない区域への新たなまちづくり

◆調査選定理由

- 住民主体による地区内の高所における移転
- 複数事業(防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、漁業集落防災機能強化事業)の組み合わせ



花露辺地区全景 (平成25年1月撮影)

◆復興まちづくり推進のポイント（初動対応）

- 特殊な地形（リアス式海岸）における移転の方向性
釜石市は山が多いことから、集団移転先として山を開削すると莫大なコストと集落から遠く離れた地区への移転となるため、町内会長を中心に集落内の比較的高い土地への移転の方針を示す
- 地区内の自主的な対応
町内会長が早い段階に町内全戸に自主アンケートを実施。（釜石市は、アンケート結果をベースに再建方法を検討。）
花露辺地区に早く戻ることを第一に考え仮設住宅は別地区にあえて建政し移転先整備を進めることを決定。
- 移転場所の選定
地区にある漁村センター周辺に移転候補地があり、住民からの提案を受け選定。
- 狭小な場所での調整
移転場所が狭いことから、町内会長が調整し戸当たり60坪程度で合意。

3

◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

- 複数事業を組合せ跡地利用
防災集団移転促進事業で移転を行い、漁業集落防災機能強化事業で跡地を利用して漁業作業場の整地を実施。
- 防御機能のある道路整備
防潮堤の整備を行わず、浸水しない安全な避難道路の機能を果たす道路を整備。
再建住居と調整しながら位置決定の工夫。
- 集会施設の機能維持
集会施設を解体し災害公営住宅を建設。
災害公営住宅のなかに集会施設を入れ機能維持を図る。



花露辺地区の施工状況(平成25年5月撮影)

4

◆復興まちづくり推進のポイント（総括）

- 町内会長のリーダーシップで、早期に住民が計画に合意。
- 防潮堤整備は行わず、地区内の高所へ移転。
（浸水区域境界に防潮機能のある道路整備）
- 花露辺地区に早く戻ることを目標に仮設住宅は別地区。
公営住宅の場所を確保。
- 漁村センターとの併設と自力再建
（住民の声を尊重）
- 複数事業の組合せによる跡地利用
（移転は「防集」、漁業作業場等の整地・道路建設は「漁集」）

5

釜石市は、新たな復興まちづくりとして主要な建築物を共通理念のもと統一性を図るため「アートポリス方式」の取り組みを実施。

◆復興まちづくりの進め方

- 復興ディレクターの選定
震災直後から土地利用計画やまちづくりの計画を一緒に検討していた3名の有識者を「復興ディレクター」として委嘱
- プロポーザル方式による公営住宅
 - ・復興ディレクターの将来を見据えた公営住宅づくりが必要であるとの意見から、プロポーザル方式を取り入れる。
 - ・公営住宅の提案書は、釜石市理念のもとHPで公開し全国から公募。
 - ・最終審査は、公平性を保つことから公開ヒアリングで実施。
- 市民の意向を反映した公営住宅づくり
選定された提案は、ワークショップを開きながら市民の意向を反映したうえで最終案へ

6